

5

特集 陰圧閉鎖療法による治療とケアの基本

外来での陰圧閉鎖療法

藤井美樹

北播磨総合医療センター 形成外科 主任医長 / 重症虚血肢センター長

Point

- ▶ 外来で使用できる NPWT 2 種類について基本的な知識をもとう
- ▶ それぞれのデバイスの特徴や注意点を学ぼう

はじめに

日本では外来で使用できる陰圧閉鎖療法は2種類あります。それぞれの特徴や装着のポイントを実際の症例を提示しながら説明します。

SNaP[®] 陰圧閉鎖療法システム

SNaP[®] 陰圧閉鎖療法システム（以下、SNaP；KCI社）は、入院加療で使用する陰圧閉鎖療法（negative pressure wound therapy；NPWT）である V.A.C.[®] 治療システム（KCI社）や RENASYS[®] 創傷治療システム（Smith&Nephew社）と同じく、創内にフォーム材を入れて陰圧をかける機械です。他の NPWT デバイスとの一番の違いは、電気を使用せずにバネの力で創部へ一定の陰圧を付加することです。陰圧 - 75 mmHg と - 125 mmHg の2種類の装置があり、滲出液はカートリッジ内に回収します。カートリッジの容量は 60 mL と 150

mL があります。滲出液でカートリッジがいっぱいになると陰圧がかからなくなり、交換のタイミングとなります。

よい点

ハイドロコロイドのカバードレッシングでフォームを固定するため、少量の滲出液は吸収されかぶれにくくなっています。また、創部の周囲に、ハイドロコロイドでできたセキュアリングという、手動的に形を変えることのできる皮膚保護剤を置くことで、カバードレッシングと癒着させ、

趾間や臀裂など凹凸があり密閉しにくい部位でも使用可能です。非電動であるため音はなく、非常に軽く携帯に便利です。

注意する点

滲出液が多すぎると、皮膚の浸軟は防げず、ひどい場合は**症例1**のように接触性皮膚炎を生じることもあります。使用中に陰圧が弱くなった場合は、作動バー（装置の上の部分）を押し込んで陰圧をかけなおしますが、高齢者など力の弱い患者や理解力のわるい患者には使用ができません。

装着のポイント

装着の際は、カバードレッシングで被覆した後、手でカバードレッシングを軽く押さえることで体熱によりハイドロコロイドが溶けて、より密着し陰圧がかかりやすくなります。また平らな面でも、セキュアリングを使用することでリークが起こりにくくなるため、必ずセキュアリングを使用するのがポイントです。

症例1 29歳女性、下腹部術後離開創（既往歴：糖尿病）

他院で帝王切開後に創部が離開したため局所麻酔下に再縫合したが、再度、離開したため当科へ紹介された。

初診時、皮下脂肪層までの離開創を認めた（**図1A**）。感染徴候はなかったため、SNaPによる治療を外来で開始した（**図1B**）。装



図1 症例1：29歳女性、下腹部術後離開創